

## 英華辞典と英和辞典との相互影響

—20世紀以降の英和辞書による中国語への語彙浸透を中心に—

陳 力衛

### 1. はじめに

近代日本語の成立に関して、中国語との関係がよく言及される。とくに19世紀にわたって中国からの漢訳洋書と英華字典が日本近代語への寄与が大きいことがつとに指摘されていた<sup>1</sup>。しかし、20世紀に入ると、その様子が逆転し、日本で充実された英和辞書などの訳語が今度は中国へ流れ、近代中国語の形成に貢献することになっている。このような日中間の語彙交流のサイクルが近代以降の日中同形語を産出させる最大の要因になっているといえよう。<sup>2</sup>

従来、19世紀の漢訳洋書と英華字典について、日本語学・中国語学の両方から取り組んできていろいろと研究されてきた。その多くは基本的に近代日本語への影響といった方向で積み重ねてきた。荒川清秀(2010)では、宮田和子の新著『英華辞典の総合的研究』(2010)を書評するとともに、これまでの研究史についても簡要な回顧をしていた。そして、英華辞典の各辞書の版や日本での受容状況が明らかになるにつれ、近代語の具体的な語誌への関与を記述する課題が残っていることと、20世紀以降の英華辞典への言及も必要になってくるという認識が出されている。<sup>3</sup>

また、最近の宮島達夫の「日中同形語の発掘」(2011)では日中対照研究の対象としては、日本語は「テレビ」、中国語は「電視」のように完全に分化しているものも、過去のある時期に訳語としての漢語「電視」が使われていて、それを中国語に入ったかつての同形語だったと考えて、その類例を「発掘」しようと、吉沢典男・石綿敏雄『外来語の語源』(1979、角川書店)を手がかりに、日中同形の漢字語訳語を抜き出して、『近現代辞源』(2010)の初出と比較し、和製漢語かどうかを模索していたものである。たとえば、昭和3年(1928)の『三省堂英和大辞典』に、

Television 電視〔電送装置ニ依リ遠距離物体ノ望見〕、てれゐじょん

と、日本で新概念に対して最初は漢語の意識を試みたが、後に「テレビ」というカタカナ音訳語が一般化したため、漢語訳「電視」は逆に忘れ去られていて、20世紀以降中国語として用いられるようになった。<sup>4</sup> この語彙の日中間の移動も英和辞書から中国の英華辞典への橋渡しを果たした結果であろう。

1  
森岡(1959)

2  
陳(2001)

3  
荒川(2010)に曰く、「筆者が十九世紀に限定している以上文句は言えないが、本当は、顔惠慶『英華大辞典』(1908)／ヘミング『官話』(1916)／『総合英漢大辞典』(1927、48)あたりまで調べ言及してもらおうとありがたかった。というのは、日中での語彙交流、語誌を考える際、ふつう以上の辞書を参照するからである。」

4  
『近現代辞源』(2010)には、中国語の初出として下記の例を挙げている。  
1934年《新知識辞典》電視(Television):指電波の伝達而將遠方的景物放送到眼前來便是「電視」

筆者も従来、こうした日中間の相互影響のサイクルに関心を持ち、いくつかの論文と英華辞典の解題を発表してきた。その多くも従来の研究のように19世紀の英華字典から英和辞書への影響を中心に論じてきた。そして20世紀に入って日本語から中国語への影響の重要性を強調しながらも、英和辞書から英華辞典への語彙浸透についてより具体的な検証と詳細な論を展開してこなかった。そこで、本稿では19世紀から20世紀までの日中両国間の語彙交流の実態を通時的にとらえようとし、まず19世紀の中国から日本へという状況を概略し、そして20世紀以降、つまり日本から中国へはどういうルートと資料を媒介に日本語の訳語が伝わっていったかを見ようとすると同時に、そういう方向への研究の必要性を提唱しようと思っている。

## 2. 19世紀英華字典の英和辞書への影響

日本に収蔵されていた19世紀の英華字典が統計によればおよそ50数種挙げられるが<sup>5</sup>、その内の6種類はとくに利用されたり翻刻されたりして日本近代語の成立に大きく寄与したことが知られている。時代順にそれを辿っていくと、大きく二期に分けられ、それぞれ日本語に関係している度合いも異なってくる。第一期はどちらかという、日本の蘭学への寄与が大きかったことに対して、第二期は日本での直接翻刻によって英学に影響を及ぼしていると考えられる。

### 2. 1 オランダ語の和訳への寄与

2. 1. 1 ロバート・モリソン (R. Morrison 1782-1834, 漢字名: 馬礼遜) の *A DICTIONARY OF THE CHINESE LANGUAGE* は三部六巻の大著であり、西洋と東洋との交流と対話の嚆矢とされ、その英華対訳の方式は二つの文化の接触と種類の異同を反映し、何よりも19世紀の西洋人の中国認識を映し出している点が最も重要である。この辞書の影響が中国に止まらず、日本にも及んでいたし、日中間で英華字典を通して新概念や訳語の相互利用に道を開いた最初のものとして注目されている。

日本では早くからモリソンの辞書に関する記述が幾つか見られ、当時では既にその辞書が知られていたようである。『日本洋学編年史』の1830年のところに「英人モリソン訳漢文書下贈天文臺訳局」という條があり、その訳員青地林宗は下記のように記している。

我方人解泰西文、創自安永中、既過五紀。其書行于世亦多。但見漢土人有斯業鮮矣。嘗聞英圭黎人模利菴來於媽港、以英語訳支那文、既成鉅冊。

思其舉也、東西文脈貫通、後續必熙。今茲庚寅初夏、官得其書數篇、下諸吾學社。余輩得始見之、云云。

つまり、日本における外国語学習が安永年(1771)に始まり、オランダ語を指すだろうが、六十年後にその書物はすでに世に多く見られるが、中国ではそういうことをやる人が少なかったようである。かつて仄聞していたモリソン(模利菘)辞典が今日ようやくこの目で確認することができて、しかも「官得其書數篇」とあるから、該当辞書は1830年の日本でもすでに官から重宝され、訳員たちの参考に供していたことがわかる。

実際には蘭通詞たちが早くからその第三部『英華字典』のほうに関心を寄せていて、その辞書を使ってオランダ語の翻訳に役立てようという利用法を考えていたようであった。当時(文政十二年1829)長崎に遊学中の大槻磐溪(1801-1878)は以下の記録を残している。

英吉利人摸禮菘者、通商廣東港、淹留數年、起志漢學、習熟之久、遂能把韻府字典之文、翻爲纏綿郭索之字、以編出一書、往荷蘭人舶齋其書、今見在象胥吉雄某許、僕嘗得一寓目、深服英人研精覃思之勤。

ここではまずモリソン(摸禮菘)についてその経歴と業績に触れ、そしてオランダ人がその辞書を日本に持ってきて、いま蘭通詞の吉雄家においてそれを目の当たりにし、モリソンの功績に感服しているという。しかも吉雄の家にモリソンの辞典があり、かれはそれによってオランダ語を加えて一冊として作り直すことを目指している。それをはっきりと証言したのは、幕末の思想家、軍事家である佐久間象山(1811-1864)で、氏の『増訂荷蘭語彙題言』(1849-50)に次のように書かれている。

漢字注以英語、洋語釋以漢字者、始于英人莫栗宋。荷蘭通詞吉雄永保、取莫氏之本書、挾英以荷、以纂一書。今語下往往存漢語者多從吉雄氏本。

ここでも、吉雄權之助はモリソンの英華字典を利用してオランダ語と日本語の辞典を作ろうとしていると言っている。具体的には、英語をオランダ語と対照させ、英語に対訳する漢字語をもってオランダ語の訳語として当てることでオランダ語から日本語への翻訳の労力をかなり節約できたということである。むろん佐久間象山も自分の増訂した『荷蘭語彙』の訳語に同じくその方法を取り、結果的にはモリソンの英華字典から漢語訳語を取り入れることになったのである。

そして日本近代洋学の開拓者たる中村敬宇(1832-1891)もその文集に「穆理宋韻府鈔敘」(1855)なる一文を残し、曰く、

英国人穆理宋者学于汉邦有年矣。能通汉邦典籍。嘗取韻府一書。一一以其邦語対訳漢字。蓋為習漢語者謀也。其意可謂勤矣。荷蘭人又以其邦語副之。三語対照。語言瞭然。在我邦讀洋書者。其為益蓋非淺鮮焉。

これもモリソン(穆理宋)辞典の上で、さらにオランダ語をつけて英蘭漢の三語対訳とし、日本の学者にとって非常に有益だったという。

その方法によって編集翻訳された蘭英漢三国語対訳辞書は一体、どのようなものなのか。大橋敦夫(2004)の調査によれば、佐倉藩(現千葉縣佐倉高等学校)に收藏されている『模理損字書』と題する写本は実はそうであるし、もう一種の写本は佐久間象山の仕える藩主所在地の長野縣松代に発見され、『五車韻府』と題し、八冊本で、「正に佐久間象山が『増訂荷蘭語彙』を出版するために参考とした吉雄氏本である」という。<sup>6</sup>

上の二写本は実は同じ源を発している。『五車韻府』と題していても、吉雄權之助がモリソン辞典の第三部『英華字典』に基づいて、英語の前にオランダ語を付け加えて蘭英漢三国語対訳辞典として編集したものである。この辞典は正式に出版されたことがないが、その後の辞典編集に大いに影響を与えたことは事実である。考えてみれば、日本最初の英和辞典『英和对訳袖珍辞書』(1862)も同じく英語とオランダ語の対訳辞典を底本とし、そのオランダ語の部分を日本語に訳して成立させたものであるから、この蘭英漢三国語対訳辞典がなんらかの役割を果たしていただろう。

一方、唐通事たちもこの辞書を手に入れようとしている。ペリー来航以降、英語の重要性がますますクロズアップされ、安政二年(1855)に長崎奉行は満州語を止めて英語を勉強しなすよう唐通事たちに勧めたことで、対外貿易の第一線で活躍する唐通事たちも母国語の便を利用して直接英華字典を使うことになったのである。安政年間の1857年に長崎西役所に洋学傳習所を開設するための図書購入リストに、第二部『五車韻府』(英華の部)を清国より取り寄せたい旨を願い出ていることが分かる。かれらの関心は、漢字語をいかに英語に訳しているかにあったと見られ、『五車韻府』はまさしくこのような漢英対訳の方式をとっているから、唐通事たちに重宝されるはずである。

モリソンの『華英・英華字典』は当時翻刻されていなかったが、その利用形態はさまざまな面にわたっていることが分かる。そして訳語の多くはすぐあとのウィリアムスの辞書とメドハーストの英華字典に受け継がれて、日本語にも受け入れられている。<sup>7</sup>

2. 1. 2 メドハースト(Walter Henry Medhurst, 1796-1857、漢字名: 麦都思)は、1830年にはバタビアで『英和・和英語彙』(An English and Japanese, and Japanese and English Vocabulary)を編纂し、石版印刷で刊行している。この本は1857年『英語箋』(村上英俊閔、安政4)として日本で

6

大橋敦夫(2004)

7

たとえば、モリソンの辞書(英華の部)では orangutan を「猩猩」と訳され、後のメドハーストの辞書にも受け継がれ、日本の『英和对訳袖珍辞書』(1862)にも反映されている。

翻刻され、その後、同じく氏の編纂した『三語便覧』(1854)に、フランス語、英語、オランダ語の漢語訳語として利用されていた。

一方、彼の英華辞典 ENGLISH AND CHINESE DICTIONARY. IN TWO VOLUMES. は第1巻が1847年、第2巻が翌48年に中国上海の MISSION PRESSで印刷された。日本での翻刻はされていないものの、中村正直は勝海舟からこの英華字典を借り、わずか3ヶ月で筆写したことが知られていて、その写したものが早稲田大学に残っている<sup>8</sup>。櫻井(2007)はそれについて詳しく紹介している。遠藤智夫(1996)によれば、その抽象語訳語の比較調査では『英和対訳袖珍辞書』がメドハーストの英華字典の影響を参照したことの顕著な証拠として、両者には比較的高い一致率があるという<sup>9</sup>。

8

[http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/bunko08/bunko08\\_c1021/index.html](http://www.wul.waseda.ac.jp/kotenseki/html/bunko08/bunko08_c1021/index.html)

9

Williams『英華韻府歴階』との一致=2.0%、Morrison『華英・英華字典』(英華の部)との一致=3.5%に対して、Medhurst『英漢字典』との一致=9.8%であって具体例として「意思・解明・謹慎・極微・事故・事情・信任・崇拜・必要・比喩」などが挙げられている。

## 2. 2 翻刻による直接利用

それ以降の英華辞典は、日本において直接翻刻され利用されている。これは中国語から日本語への語彙交流の重要ルートの一つとされている<sup>10</sup>。

- ウィリアムス『英華韻府歴階』(1844) ⇒ 柳沢信大『英華字彙』(1869)  
 ロブシャイト『英華字典』(1866) ⇒ 中村敬宇『英華和訳字典』(1879)  
 ⇒ 井上哲次郎『訂増英華字典』(1883)  
 ドーリットル『英華萃林韻府』(1872) ⇒ 矢田堀鴻『英華学芸詞林』(1880)、  
 『英華学芸辞書』(1881)、  
 『英華学術辞書』(1884)  
 鄭其照『字典集成』(1875) ⇒ 永峰秀樹『華英字典』(1881)

10

拙稿「早期の英華辞典與日本の洋学」『原学』第一輯(中国広播電視出版社1994)、「從英華辞典看漢語中的日本語借詞」『原学』第三輯(中国広播電視出版社1995)を参照。

の四種が挙げられるが、下記のようにそれぞれ特徴のあるものである。

2. 2. 1 ウィリアムス(Samuel Wells Williams, 1812-1884, 衛三畏(または衛廉士))の *An English and Chinese Vocabulary in the court dialect*. 1844. Macao (中国語名『英華韻府歴階』)であり、本文は、書名の通り *Vocabulary* であってほとんど英語と中国語の対訳形式をとっており、前のモリソンの辞書よりは訳語が短くて簡潔なのが特徴である。日本では明治2年にこの辞書が『英華字彙』(1869)として翻刻された。原書にある本文のみを抽出し、序文や解説や漢字部首索引などをすべて省き、さらに本来漢字訳語にあった中国語の読みをも取り去って、代わりに、解説に役立てようと訓点を施している。多少の字句の改変はあるものの、基本的に忠実に翻刻されている。

2. 2. 2 ロブシャイト(W.Lobscheid 漢字名:羅存徳)の *English and Chinese Dictionary, with the Punti and Mandarin Pronunciation*

11

明治17年の尺振八編『明治英和字典』(1884)では、同じ英語「Judgment」に対して、従来の「裁判」のほかに、英華字典からの「審判」を並べていた。そして「Democracy 共和政治、民政」でも「民政」がロブシャイトの辞書から取っていた。

12

宮田(2010)によれば、「井上」の初版7分冊本を、本文の訳語(漢字語)に限定して調査した結果、専門用語(主として科学用語)は、S.W.Williams『英華韻府歴階』(1844)とJ.Doolittle『英華萃林韻府』第3部(1872)から、その他は主として先行英華辞典から採られているという。

Hongkong, 1866-1869は四分冊で内扉に「英華字典」とある。この辞書の規模はそれまでの最大のものであり近代漢語訳語の宝庫として注目される。中村正直『西国立志編』(明治4年)、『自由之理』(明治5年)、西周『利学』(明治10年)、柴田昌吉・子安峻『附音挿図英和字彙』(明治6年)に「偶然、内閣、領事、園芸、反射、同情、黙示」など、この辞書から訳語を取り入れたことがつとに指摘され、尺振八の『英和字典』にもその痕跡を残しているという。<sup>11</sup> 日本では二度にわたる翻刻も行われた。一回目は明治12年(1879)刊行の中村正直校正、津田仙、柳沢信大、大井鎌吉訳の『英華和訳字典』乾坤二冊であり、二回目は明治16年(1883)に井上哲次郎が編纂した『訂増英華字典』である。原文の中国語読みや方言漢字を取り除き、漢字訳語の取捨選択を行ったりしていた。<sup>12</sup>

その後、20世紀の初頭までにこの井上『訂増英華字典』は何度も版を重ねた。しかも、1903年の再版本奥付には中国の年号で光緒29年、上海作新社発行とあり、また、明治39年(1906)の第三版にも同じく中国の年号がついているところから、この辞書は中国人をも想定して販路を拡げていったことが分かる。つまり19世紀の末から20世紀にかけて来日した多くの中国留学生がこの辞書を井上哲次郎のものとして認識した結果、そこに使われる訳語を日本で成立したものと見なしていた可能性もあろう。

2. 2. 3 ドーリットル(Justus Doolittle 1824-1880, 盧公明)のA Vocabulary and Hand-book of the Chinese Language, Romanized in the Mandarin Dialect, in Two Volumes Comprised in Three Parts は二冊三部からなる。中国語名は『英華萃林韻府』であって一冊目が第一部で、6万6000種類の英語表現を収録した語彙集である。二冊目の前半は第二部で、一冊目から英華対訳の決まり文句(諺)や短句を抜粋しアルファベット順に配列している。二冊目の後半は第三部で、各国の宣教師や領事館の職員、税関職員その他中国在住の人々の協力を得て編集された分類語彙集である。全部で八十五部門にわたっている。なかでも、學術用語の執筆者に当時中国で活躍していた宣教師が多いことから、本辞書の編纂でその流布と定着に貢献したものと推定できる。

日本での矢田堀鴻による翻刻も主にこの第三部の分類語彙集に絞られていて「地理学之語、数学及星学之語、機関学之語、金石学及地質学之語、船舶及船具運用之語、理学之語、商法之語、人倫之語」と、明治初期の日本人にとって必要とされる8部門を抽出し、3200語に編集しなおした。そして訳語にルビをつけたり、訳語の後に括弧入りの独自の解釈や挿訳をしったりすることで日本語の中に取り入れようとした。明治13年の『英華学芸詞林』、14年の『英華学芸辞書』に続き、17年の『英華學術辞書』へと、書名だけを少し変えつつ版を重ねてきたが、内容的な改変は少ない。

和刻版のこの辞書の訳語は『英和字彙』（第二版、1882）に影響を与えたことが知られているし、宮田（2010）の研究でも井上哲次郎の『訂増英華字典』の訂増ソースとなっていることを明らかにしている。「Telegraph電報、Galvanic battery電池、Light光線、Numerator分子、Geology地質論、Properties of Matter物理、Momentum動力、Optics光学、Area面積、Constant常数、Differential calculus微分学、Logarithm代数、Custom house税関、Parliament Congress国会、United States美国、合衆国、聯合之邦、National University国学、大学」などのように、数学・物理・政治関係でなお使用されているものは多いが、他の分野では用語の廃れが激しい。

2. 2. 4 鄭其照 (Kwong Ki Chiu) 編『字典集成』(1868) English and Chinese Dictionaryは中国人の手になる初の英華辞典であるが、メドハーストの辞書から影響を受けていることが明らかである。1875年に再版が出て、1880年以降にも版を重ねてきた。永峰秀樹訓訳の『華英字典』(1881)は再版(1875)の點石齋本によって翻刻されている、さらに氏は1881年にニューヨークで『英文成語字典』を出版した。それを受けて明治32年に英学新誌社や明治34年に国民英学会からそれぞれ大幅に手を加えて新しい熟語辞書として出版した。<sup>13</sup>

同じ中国人の編集となる子卿原著の『華英通語』(何紫庭序1855)があり、福沢諭吉が幕府遣米使節に随行した時、サンフランシスコ在住の清の商人より譲り受け、それに和訳を加え『増訂華英通語』(1860)として翻刻した。英単語を意味分野別に細かく46類に分類し、枠ごとに筆記体で単語を挙げ、その上に片仮名で、下に漢字で音注を示し、右側に中国訳と片仮名で和訳が示されている。簡単な会話集もついている。片仮名の音注と和訳が福沢諭吉によって増補されたものである。

### 2. 3 漢語訳語の英和辞書への流入

こうした英華辞典の訳語が明治期の英和辞書の漢語訳語の増加にも反映されることは、森岡健二（1959）の研究で分かる。右の図1のように、最初の英和辞書ではまだ句の訳が多かったが、明治時代に入ってから次第に英和辞書における漢語訳語が右肩上がりに急増したのが一目瞭然であり、そのソースの一つとしては上記の英華辞典からの訳語を取り入れたところが大きであろう。

この漢語訳語が英和辞書に取り入れられることによってさらに使用を広げ、近代概念としての対訳をも一層強固なものにされたわけである。それだけでなく、明治知識人たちが独自に工夫した漢語訳語も増えてくるし、既存の漢語を用いて意味をずらして英語への対訳をする動きも加速していったことで、英和辞書における漢字訳語がますます充実されていった。

13

Kwong Ki Chiu (鄭其照): A Dictionary of English Phrases. With Illustrative Sentences. は、英学新誌社から『英和双解熟語大字彙』(1899)と改編・和訳された。そして国民英学会から明治34年(1901)930ppの小型本を出している。(高田時雄(2009)を参照)

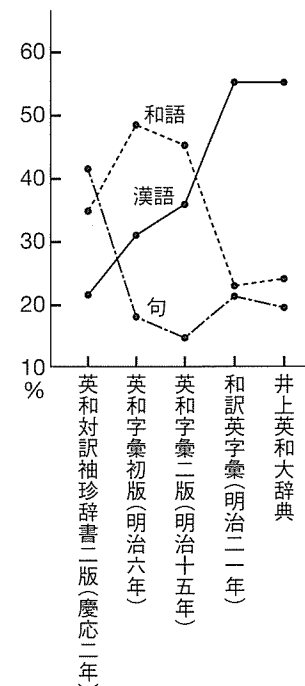


図1 英和辞書における訳語の変遷

### 3. 20世紀以降の逆転—英和辞書の英華字典への影響

近代中国における日本語の受容について述べる前に、まず日中間の言語交流の歴史を区切ってたどる必要がある。19世紀から日清戦争までは上記のように中国から日本に影響を及ぼすことが多かったが、日清戦争以降、それが逆転して、日本から中国へ影響を及ぼすことが多くなってきた。それ以降さらに、

- ① 1895 - 1919 日清戦争からベルセユ条約（熟成期）
- ② 1919 - 1945 ベルセユ条約から敗戦（決裂期）<sup>14</sup>
- ③ 1945 - 1972 日中国交断絶期
- ④ 1972 - 2000 国交回復以降

のように、四期に細分できよう。ただ、それは明らかに国際政治によって時代分けをしたものであり、言語間の交流がその境目を突破することはしばしばであり、人的交渉の断絶という意味で①②を一括りにしても③④との対比ができそうである。本稿では一応それをめどに両言語の交渉を史的に眺めようとする。

#### 3. 1 日中間の「黄金十年」

第①期は日清戦争後から1896年清国が日本へ留学生を派遣し始め、いわゆる日中間の「黄金期」と言われる1898-1910の十数年を経て、21箇条を中国に突きつけた1919年までの、両国間においてもっとも関係の緊密した時期であり、<sup>15</sup> 人的往来に伴って文化交流も凄まじい勢いで進められてきた。とくに1902年以降、中国留学生による日本書物の翻訳も盛んに行われ、多くの日本新漢語・新概念が中国語に持ち込まれた。そのルートと媒介の一つとして英和辞書が挙げられる。したがって20世紀以降中国で作られる英華辞典は逆に英和辞書を主要参考書として利用するようになった。その意味では、中国語の語彙の近代化は日本語に負うところが大きいと言えよう。

中国で出版された英華辞典はまず商務印書館系統のものが注目される。<sup>16</sup> その中で旧来のロプシャイド英華字典の影響を受けている流れもあれば、あらたに編集したものもある。前者として『華英音韻字典集成』（1901）が挙げられるが、後者の代表として当時の最大規模の顔惠慶『英華大辞典』（1908）が挙げられるのであろう。いずれも編集や増補する際に日本語由来の新名詞を取り入れることがしばしばであった。

3. 1. 1 19世紀出版された辞書であってもその増補が行われた際、新たに新語を取り入れるのが常である。たとえば、1871年に編集された下記の辞書、『漢英合璧相連字彙』Chinese and English vocabulary in the Pekinese dialect. Shanghai (1871) は外国人によって編集された華英字典であり、

14 狭間 (2011) の分類に従う

15 米国の学者 Douglas R. Reynolds は『新政革命と日本 (中国 1898-1912)』（海外中国研究叢書、江蘇人民出版社、2010）において、1898-1910年は中国政治改革と社会変遷における革命的十年といわれ、辛亥革命によって帝制が打倒されても本質的には新政府はなおも清末の憲政革命を踏襲し、戊戌百日維新で推行了した種々の方策も続いている。日本はこの一連の社会変革においてモデル的役割を果たし、「黄金十年」において日本の役は「持続的、建設的であって非侵略的であった」と書いている。

16 那須雅之監修『近代英華・華英辞書集成』（大空社）の解題を参照。



従来のように漢字単字を親字に熟語を並べたものであったが、その第三版では異なる編者によって次のようなものであった。

『漢英合璧相連字彙 A CHINESE AND ENGLISH VOCABULARY IN THE PEKINESE DIALECT』THIRD EDITION SHANGHAI, American Presbyterian Mission Press, 1898年 ORGF CARTER STENT, Revised by Donald MacGillivray.

「民主」「民主之國」の二語はこの辞書の第一版(1871)にはまだ収録しておらず、第三版(1898)になってから新たに増補した新語である。

同じように、中国人の編集した『英字指南』の異なる版(1879、1905)を見比べることによって、新語が付け加えられたことがわかる。<sup>17</sup>

17

周振鶴「鬼話・〈華英通語〉及其他」(《読書》1996年第3期)にその増補を「此書亦有六卷之多,后被商務以半洋装、洋装再版過数次,以《增广英字指南》名義推出。所謂增广,其实十分有限,僅在卷六《通商要語》末尾加上文規(即文法)訳略及英文尺牘兩節,并在同卷〈交易〉一節中加上十来句会话例句而已。」と言っているが、実際に表1のように重要訳語の更新をしていた。

表1 『英字指南』(1879、1905)版の異同

英語	初版 1879	増広 1905	備考
Adviser	○参謀	○卷三	英華字典(1866)
Deputy	○委員	○卷三	
Semi-transparent	○反射	○卷四	反射光
Harmony	○和声	○卷四	英華字典(1866)
Working power of electricity	○電力	○卷四	
Book of arts	○藝術	○卷三	芸術類
Philosophy	×「格致」	哲学 卷二	
Philosopher	×「博学人」	哲学家 卷三	
Society	×「結社」	社会 卷二	
Observatory	×「觀天台」	天文台 卷四	
Astronomy	×「天学」	天文学 卷四	1874、1875
Zoology	×「生物学」	動物学 卷四	1875

つまり、初版では○をついた語はそのまま増広版にも受け継がれたが、初版では×をついた語は増広版では全部新しい言い方へ言い換えられた。しかも「哲学、社会」のように日本由来の訳語がほとんどである。

3. 1. 2 1908年の顔惠慶『英華大辞典』は同類辞書のなかで規模の大きいもの(3,000ページあまり、12万語を収録)と言える。その「例言」において、

是編採用諸書。暨所参考。不下数十百种。有為中国教育会本者。有為江南製造局本者。有為嚴式所著本者。有為英和字典本者。

と、当該字典の編集に英和辞書の利用を初めて認めながらも具体的な辞書名を挙げなかった(傍点は筆者)。

たしかに、19世紀末ころ20世紀初頭にかけて英和辞書の編集は格段に進み、漢語訳語をより充実させた上で、新時代にふさわしい新名詞という洗練されたイメージが漂っている。よって、中国では英和辞書をモデルに英華辞典を編集することが一時のブームとなり、新語を取り入れる「近道」でもあった。その現象に対して、『英華合解辞彙』(1915)の例言に下記のような批判があった。

吾国通行之英漢字書非由英文本直译，即由和文本改纂。

これも別の意味で当時の中国で編纂された英華字典が多く「和文本」から改纂されたことを裏付けている。ただし、こういう批判をしながら、『英華合解辞彙』自体も、「縑帯」「普通」などにはわざわざ「新」と明記しているし、ある種の新語を取り入れる態度を示している。同じ流れは下記の、

English-Chinese Dictionary of the Standard Chinese Spoken Language (官話) and handbook for translations, including Scientific, Technical, Modern, and Documentary Terms. (1916)

という英華辞典にも見られ、そこもやはり「新語」として、政府御墨付きの意味の「部定(教育部制定)」も表記している。

ほかに、華英辞書の『漢英新詞典』(李玉汶編、商務印書館、1918)でも日本の和英辞書を念頭に入れて参考しているようである。当辞書の「例言」にいわく、

本書所備之參考書。為漢英、英漢、和英、英和、各辭典。英語、漢語、日語、各辭典。以及各專門辭典。術語辭典。共八十餘種。

と、日本語資料の参照を認めている。以下、具体例として商務印書館系統の英華辞典を通して、日本語由来の「共和」がいかにか中国語辞書へ登録していったかを見よう。

表2 「共和」の増補

	『商務書館華英字典』 (1906)	顔惠慶『英華大辭典』 (1908)	『増広商務印書館 英華新字典』(1913)
Democracy	奉民主之國政	民主政體、民政、庶建	民主政治、民政、 民黨主義、庶民、萬民
Democrat	奉民主者、從民政者	扶立民政者、 倡民主政體之人	倡民主政體之人、 從民政者、民黨人
Republic	共和政治、民政國、 共治國	民主政體、共和政府、 公共國政、民主國	民主國、共和政體、 學士團體
Republican	共和國的、共和政治的、 共和黨、民政黨	民主國的、屬公共政體的。 -opinion 共和主義之意見	民主國的、共和政體的。 合共和主義的。 倡民主政體之主義者、 共和黨人

網線で囲む単語は日本由来の新語である。1906年の辞書にはすでにあり、次第に増えてくることがわかる。ここで注目すべきなのは顔惠慶『英華大辞典』(1908)の訳であり、まず「民主政体」をもってDemocracyに対訳するだけでなく、Republicにも対訳している。そして後者の訳の中に「共和政府」も併存している。1913年の辞書では一層新語を増補していることがわかる。<sup>18</sup>

18  
陳(2011.11)

### 3. 2 新語集の流行

初期では日本からの借用という認識が薄く、おおまかに「新名詞」といって、この種の語彙を一括して扱っている。日本でも留学生を中心に新語集の『新爾雅』(1903)が編纂された。この外、外国人の作った「新語集」の類も多く出ている。

TECHNICAL TERMS C.W.MATEER 1904

TECHNICAL TERMS GEO.A.STUART.A.M.,M.D. 1910

NEW TERMS FOR NEW IDEAS A Study of the Chinese Newspaper  
A. H. MATEER 1917

Hand book of new terms A. H. MATEER 1917

3. 2. 1 そのうち、狄考文(C.W.Mateer): TECHNICAL TERMS ENGLISH AND CHINESE(1904 序1902)には早くも、

形而上学、哲学、腺、衛生学、物理学、科学、動産、真理、愛国心、引力などを取り入れているが、表3のように、1910年の増補版のTECHNICAL TERMS GEO.A.STUART.A.M.,M.D. でもいろいろな新語を加えた。

表3 新語集における新語の増補

英語/訳語	TECHNICAL TERMS 初版(1904)	TECHNICAL TERMS 増補版(1910)	備考
Admiral	水師提督	水師提督、海軍大將	
Anatomy dissection	×	解剖学	
Bind spot	×	盲点	
Communism	有無相通	共產主義、民政	
Democracy	×	民政 <sup>19</sup>	
Public health	×	衛生公学	
Society	人世	人世、社会	Socialism 均富
Temperature	熱度、冷熱	温度、熱度、冷熱	

その網掛けの語はすべて日本語由来の新語とは限らない。「民政」のように19世紀の英華辞典から英和辞書へ入ってからまたもう一度20世紀の英華辞典に戻ってくる例もある。

19  
最初ロブシャイドの『英華字典』(1866)にあるDemocracyの訳語の一つであったこの「民政」を、明治六年の『英和字彙』(柴田昌吉・子安峻、1873)では日本語訳の「共和政治」の後に新しい訳語としてくつつけられている。  
Democracy共和政治、民政  
中村敬宇『英華和訳字典』(1879)でもロブシャイドの『英華字典』を翻刻する際に、読みをつけてミンセイ(民政)と和訳していた。さらに注意すべきなのは、井上哲次郎が1881年に出版した『哲学字彙』も「民政」をもってDemocracyに対訳したのである。ヘボンの『和英語林集成』第三版(186)ではこの語を収録し、MINSEIミンセイ 民政 Democracy、popularordemocraticgovernment.  
と、明らかにDemocracyに対訳することによって、日本語に広く使われるようになった。当時からすでに「民政党、民政会、民政主義」などの用法があり、すべてDemocracyの意を表している。(陳(2011.11)を参照)

3. 2. 2 さらに、日本由来の語を明記した新語集がある。管見では1917年のHand book of new termsでは始めて日本由来の新語として下記の語にJと注記したものである。

adherent 僧侶、appellate court high 大審院、arbitration 仲裁裁判、  
arbitration treaty 仲裁条約、arbitrator 仲裁、attorney-at-law 弁護士、  
authority, to have 支配、authorize 裁(認)可、bayonet 銃刀、  
biplane 複葉式飛行器、bishop 僧正、blow one's own horn 法螺、  
bricks 煉瓦、butter 牛酪、ceremony of ship-launching 入水式、  
chief justice 法相、cholera 虎列拉、church property 寺院、  
cinematograph 活動写真、company(for business) 会社、  
concession(for residence) 居留地、confederated 組合、  
correspondence course(of university) 校外科、  
court(supreme or of cassation), appellate 大審、court house 裁判所、  
despatch 通牒、director( of affairs of secrecy) 理事、  
electric torch 探見電灯、employees 職工、  
exchange(money changer's shop) 両替屋、finished 終了、  
flash light 懐中電灯、foreign minister 外相、foreign things 舶来物、  
frightfulness 辣腕、gelatine pad(for copying) 寒天版、gland 腺、  
grand 多大、home secretary 内相、in 裏面、memorandum 覚書、  
methods 手続、minister of agriculture and commerce 農相、  
minister of navy 海相、minister of war 陸相、minister of prime 首相、  
motor car 自動車、necessities of life 衣食住、office (building) 事務所、  
officers, military 士官、one sided 片面、one sided affair 片務、  
oral, oral communication 口頭、passport 周遊票、photograph 写真、  
plead a case 弁護、pope 法王、reference library 参考文庫、regulate 取締、  
remain a short time 逗留、return trip(of steamer) 帰航、robust 健康、  
rowdies 浪人、scholars(of school or college) 生徒、  
special permission, to grant 特許、start 出発、station, r. r. 駅、  
stimulus 刺戟、subscribed capital for enterprise 基本金、sugar 砂糖、  
timber 木材、trade 企業、trading post 場所、votes, to get 得点、  
wrestling, art of 柔術

これらの新語にはすでに「組合、両替屋、覚書、手続、取締、組合」などのような訓読みから来たものがあれば、「外相、内相、法相、農相、海相、陸相、首相」のような日本独特な命名もある。

ただ、この新語集において日本で定説になっている和製漢語「目的、美学、世紀、文明、取消、美術、普通」を数えていないし、逆に「大審院、大審」など、

すでに、漢訳洋書の『聯邦志略、上巻』に出ているものが入っている。したがって、いわゆる日本由来の語彙表は最初からその基準をあまり厳密に定めずに、編者の恣意的判断（新しく使用されるかどうか）によるところが多かろう。<sup>20</sup>

20  
陳(2001)

### 3. 3 専門分野別辞書と他の対訳辞書

3. 3. 1 英華辞典以外に、他の対訳語辞典も中国へ新語を伝える重要なルートの一つである。商務印書館の『徳華大字典』(1920)は『独和字典大全』、『独和新辞書』、『独和大字典』、『独和法律新辞典』、『独和兵語辞書』の六種類の日本の独和辞書を参照している。実際にそのような編集方針は後にもずっと続けられていた。ほかの対訳辞書に関してもこの視点から訳語の成立を見直す必要がある。ただ、その中で日漢辞書の類はやや特別で、日本語の見出しがそのまま中国語訳語になっているケースも多いからである。

3. 3. 2 専門分野の一環として医学語彙が挙げられる。この分野において『医学名詞彙編』(1931)による訳語の選定が日本語の中国語への移植過程を見るのに都合がいい。たとえば、この辞書では下記のように日本語訳をベースに中国語の訳語を最終的に決めている。その中国語における定着率を知ることによって当時の専門用語の領域における日中語彙交流の実態をみることができよう。

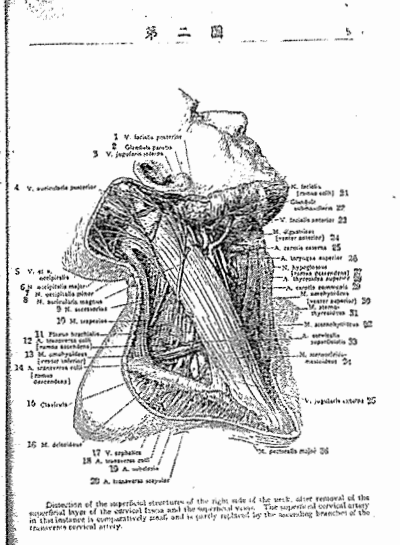
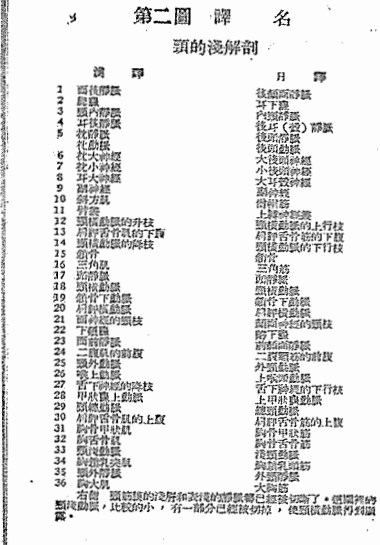
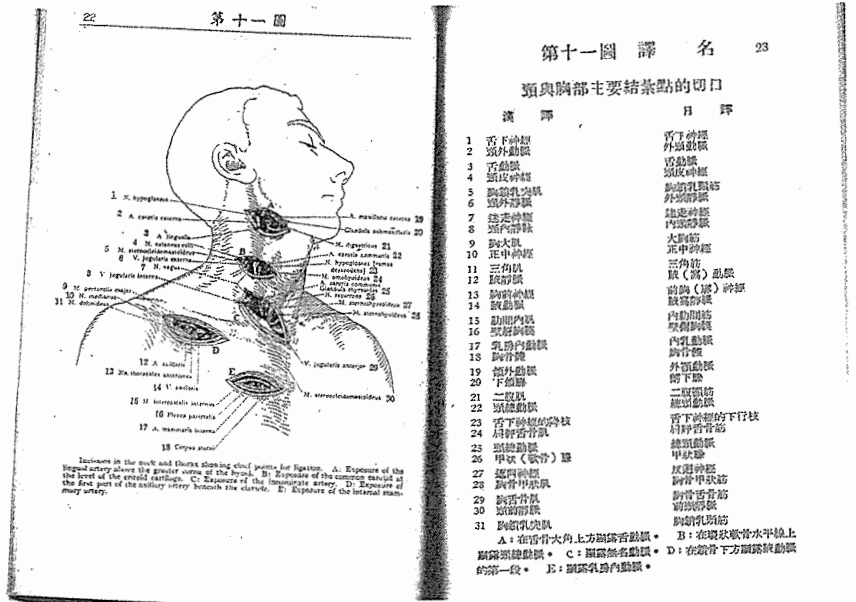
表4 『医学名詞彙編』における訳語の確定

見出し語	英語	日訳	参考名	決定名
激素	Hormone	覚醒素	激素	激素、内分泌素
剂量	Dose	用量		剂量(用量)
休克	Shock	震盪、震盪性、震盪症	震盪、震感、脳力受震盪	休克、震盪
抗体	Antibody			抗体
夜盲	Night-blindness	夜盲	夜盲	夜盲
雪盲	Snow blindness	雪盲		雪盲
維生素	Vitamin	活力素	維生素、生活素、維他命	維生素
奶粉	Dried milk	奶粉		奶粉
脱位	Dislocation	脱臼、転位、変位	脱節、脱位	脱位、脱節
内出血	Internal hemorrhage	内出血		内出血
内障	Cataract	白内障		内障

最終的な決定名となった語の内、日本語から入ってきたものとされている網掛けの語は半数以上を占める。

3. 3. 3 『外科解剖図譜』(1948、中国人民解放軍華北軍区衛生部出版)という、日中戦争後に出版された解剖図で、時代的にみれば国交断絶期に属する書物だが、当時の華北には大勢の日本人軍医や看護婦が人民解放軍の陣営に入っていたことから考えると、これもむしろ緊密な人的接触・交流による産物であろう。下図のように、原文は英語で、それから日本語訳と中国語訳をつけて、英語→日本語→中国語のように訳語が確定されているようである。そのうち日中間の同形語は7割近くも上り、今日までの解剖学の基本語彙となっている。

図2 『外科解剖図譜』における英・和・漢の対訳



具体的にみると、「副神経、鎖骨、舌下神経、甲状腺」のように日中両国語が全く同じもののほかに、「三角筋：三角肌、甲状腺上動脈：上甲状腺動脈、返廻神経：返回神経」のように日本語と中国語と一字違いのものもある。こうした医学関係の語彙交流が外科に止まらずさらにいろんな分野にまで広がっていたことは20世紀以降中国で編集されたさまざまな医学辞典をみればわかる。

#### 4. 20世紀後半の語彙交流

商務印書館の顔惠慶『英華大辞典』(1908)から四十年あまり経て、鄭易里『英華大辞典』(三聯書店、1950)がいわゆる新中国のもとで出版された。その後、この辞書の著作権は商務印書館に受け継がれ、1956年の改訂を経て中国では確固たる支配的な位置を占めるようになった。1984年に修正改訂第二版が出て、さらに2000年8月その第三版が出ていて、ちょうど半世紀の歩みをしてきた代表的な英華辞典と言えよう。

##### 4. 1 国交断絶時代の語彙交流

4. 1. 1 鄭易里『英華大辞典』(三聯書店、1950)はかなり大部のもの(2143 p、本文1-1522、補遺15-34、中文索引1523-2137、後書き)で、その主要な参考書として挙げていた英和辞典が下記のものである。

1927 Kenkyusha's New English-Japanese Dictionary on Bilingual Principles (研究社新英和大辞典) was edited by Okakura Yoshisaburo (岡倉由三郎).

1915 Saito's Idiomatic [sic] English-Japanese Dictionary (熟語本位英和中辞典, Ōbunsha,) was edited by Saito Hidesaburo (斎藤秀三郎)

1941 Kenkyusha's Concise English-Japanese Dictionary (岩崎民平(編) 昭16. 第1版) 1819pp.

1936 Sanseido's New Concise English-Japanese Dictionary. Revised Edition. (三省堂編輯所編改訂コンサイス英和新辞典, 昭11)

1931 Fuzambo's Comprehensive English-Japanese Dictionary (島広三郎・市河三喜・畔柳都太郎『大英和辞典』富山房, 昭和6)

1937 Kenkyusha's Current English-Japanese Dictionary (研究社時事英語辞典, 昭12)

そして、編者は上記五種の英和辞書について次のようなコメントをしていた。

(以上)五種是英日辭典,各有特長:有的編排簡明,雖有豐富內容,而檢查極便;有的解釋細膩,能針對東方人在歐美語文上可能有一切隔閡而加以適當說明;但因出版年代較早,缺少新字新義,這是它們的共同缺點。

とあるように、良い面を褒める一方、最後の「出版年が古く、新字新義が欠けるのは共通な欠点」として挙げている。つまり、時代的にはすでに日本との国交断絶期に入るが、参考となる辞書としては逆に1920年代から30年代にかけてのものが多く、どちらかと言えば、日本の大正と昭和前期の言葉を取り入れている結果となる。それでも1908年の英華辞典に見られない特徴としてまず目立つのは接辞の発達であろう。

21

陳(2011.3)を参照。

22

「特」による二字熟語を中国語『漢語大詞典』と日本語(『日本国語大辞典』)からそれぞれ拾い出すと、中国語19語に対して、日本語は87である。しかし、近代以降の創出という視点から見ると、中国語はわずか以下の28語である。

特工 特刊 特有 特此 特任 特色 特技  
特使 特例 特性 特定 特派 特約 特殊  
特訊 特効 特務 特区 特許 特産 特等  
特産 特種 特価 特質 特徴 特写 特点  
特權

その中で傍線のつく5語は中国で新たに作り出されたもので、その他は日本語と同じ形態になるから、逆輸入された可能性も大である。

Pan 汎～ 汎神論、汎心論、物質汎宇宙論  
Peculiarity 特～ 特有、特殊、特質、特性、特色  
～ bility ～性 永久性、耐久性

「汎～」「～性」の接辞は西洋文体の日本移入の例としてよく挙げられていたことは、山本正秀『言文一致の歴史論考』(1971)に指摘がある<sup>21</sup>。一方の「特～」の熟語の発達も近代以降に多いことを陳(2004.6)では指摘している。<sup>22</sup>

それから1908年の英華辞典と大いに異なったのはやはり専門語彙の吸収であろう。いわゆる分野別の【】記号のついた訳語は日本語との一致度がより高くなってくる。たとえば、

【医】静脈炎 【哲】現象学 【語音】音素學 【生】単性生殖 【理】光電管

などのように、新語として日本の和英辞書からそのまま採用しているものが多い。

4. 1. 2 十年後に出版された『簡明英漢詞典』Concise English-Japanese Dictionary(張其春・蔡文縈編、商務印書館、1962)は異なる編集者によるもので、収録語数26,150語の小型辞書だが、主要参考書に、

研究社:『新英和大辞典』1956、1960

三省堂編修所:『明解英和辞典』1956

島村盛助・土居光知・田中菊雄:『岩波英和辞典』1958

勝俣銓吉郎『新英和活用大辞典』研究社、1959

という4冊の英和辞書を挙げている。いずれも戦後の新しい版を参照しているところからみれば、国交断絶期とはいえ、辞書の輸入と使用はその制限をあまり受けていなかったようである(その後、一冊を輸入して海賊版を作る時代が



1980年代後半まで続いた)。いわゆる日本由来の新語を導入するにはさまざまなルートが出てきて便利なものであるが、ただ、小型なだけに、

Paradox【哲】逆説、Power権限、Prognostic【医】預後的

のように、やはり専門分野に限って日本語語彙が多く見られる。

実は、この辞書に日本語の影響を受けている痕跡が色濃く残っている。たとえば、paradiseを「天国」、parentageを「親子関係」、paroleを「假釈」、patentを「特許的」、pepを「元氣」に訳すのも全部日本の英和辞典の訳語を踏襲している。

## 4. 2 国交回復後の語彙交流

4. 2. 1 『英華大詞典（修訂第二版）』（商務印書館、1984）は4.1.1で挙げた鄭易里『英華大辞典』（三聯書店、1950）の増補修訂版であるが、実は1956年にすでに追補したことがあって、これがそのさらなる修訂版である。そこに主要参考書目として

Shogakukan Random House English-Japanese Dictionary（小学館ランダムハウス英和大辞典、1973）

の一冊しか挙げられていなかった。具体的な訳語を調べてみると、

Pace（投手的）球速

Panel 配電盤

Parasympathetic 副交感神経的

のように、やはり新たに日本語から取ったものもある。これらはむろん小学館の辞書にある訳語だが、これまで挙げていた英華辞典には収録されていなかったのである。

いままで扱った四種類の英華辞典を並べてみると、表5のようにいくつかの特徴が見てくる。

まず1908年の英華辞典と比べてみると、基本的な概念確定は1950年の英華辞典からほぼ定まっている（田舎歌→田園曲、報国心→愛国心）。接辞や三音節語もその辞書から多く見られるようになる（可透過→可透性、偏執狂、薬剤師など）。

それから1950年版と1984年版は同じ編者であるだけに、類似と継承が顕著に見られる。たとえば、「Paranoia 偏執狂、妄想狂」がこの二種類の辞書にしか出ていないとか、他の二種の辞書とは訳語の一致度が異なってくる。「Pension年金」のように、最後の1984年の辞書ではそれを取りやめ、中国語の「養老金」への回帰を果たした例もある。

表5 英華辞典の訳語の推移

英語／訳語	『英華大辞典』 (1908)	『英華大辞典』 (1950)	『簡明英漢詞典』 (1962)	『英華大詞典(修訂 第二版)』(1984)
Paradox	似非而是之論	似非而是的議論	逆説、反論	似非而可能是的論点
Paranoia		偏執狂、妄想狂		偏執狂、妄想狂
Particle	微片、細分、微分	分子、粒子、質点	微粒、粒子、質点	分子、粒子、質点
Pastoral	牧歌、田舎歌	牧歌、田園曲	田園詩、田園劇、 牧歌	牧歌、 田園詩(曲、劇、画)
Patriotism	忠心、忠義、愛国心、 報国心	愛国心	愛国心、愛国精神	愛国心、愛国主義
Pension	年金	年金	年金	養老金
Permeability	可透過、可透徹	可透性、浸透性、 導磁性、導磁係数	浸透性、可浸性、 磁導率	可透性、浸透性、 磁導率、磁導係数
		導磁性、導磁係数	磁導率	率、磁導係数
Pharmacist	調剤者、製配者	製薬者、薬剤師	薬師、調剤員	製薬者、薬剤師

4. 2. 2 科学技術系の英漢、日漢辞書の編集と利用が1972年以降国交樹立後の最大の流れであった。日本の新技術を身につけようと、多くの日本語学習者が技術資料の翻訳に取り組んでいた。筆者の日本語学習も最初この需要からスタートしたのである。とくに電子、機械、化繊などの分野では日漢対訳の辞書が真っ先に作られ、ほとんど専門分野へのアプローチであったため、日本の辞書にある多くの漢字語をその字面のまま中国語の訳語とする場合が多かった。その意味では国交回復後の新語導入が専門分野に多いという特徴があるといっても過言ではなからう。

一方では、1970年代の日本語にはカタカナ語が増えていて、漢字訳語は前の時代(1950年代)に比べると明らかに減少しつつある。日本人独自の漢語創出も減ってきたことで、日本からの漢字訳語を借りただけではすまなくなり、どうしても中国独自の訳語も多く作らなければならなかった。同じ英語に対して中国語のほうはすべて漢字語で対訳しているので、そこで、中国語の漢字訳語を日本語にも生かそうという考えが出てきても不思議ではなかった。事実、1981年12月に成都で開かれた中日出版会議では日本の三省堂出版から中国で出版された専門辞書にある漢字訳語を日本にも応用させようという考えもあったようだが、結局、実行には移せなかったのを見ると、やはりカタカナ語に押されて漢字語に戻すことが難しかったようである。(随分後に21世紀に入ってから国立国語研究所による外来語の書き換え案という試みはあったけど、中国の漢字語訳などを参照することはなかった)<sup>23</sup>

23

たとえば、「アイデンティティー(identity)」を「独自性、自己認識」、「アセスメント(assessment)」を「影響評価」、「ガバナンス(governance)」を「(企業)統治」に書き換えたりしている。中国語ではアイデンティティーを「自我認同」に、アセスメントを「重新評估」に、ガバナンスを「公司管理」と訳されるのと異なる。

## 5. 結び

宮島達夫(2010)は近代における日本語と中国語の発達の歩みを下図のように「中国語の近代化への歩みは日本語よりもおそく、二十世紀の初めには日本語に逆転される」という結論を得ている。この図を見れば、日本語に遅れて中国語はやはり1950年代から60年代にかけて近代化を完成させたことがわかる。英華辞典に取り入れられた日本からの訳語もほぼその時代的推移を物語っている。

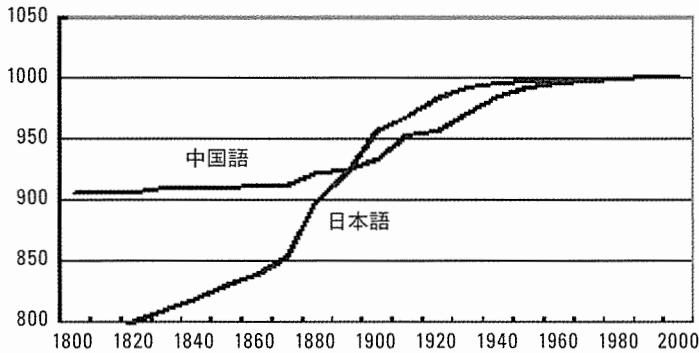


図3 近代における日本語と中国語

したがって、全体的に見れば、第①期の成熟期において日本語からの語彙移入が進み、人文・社会などの面において大まかに補完していたと言えよう。第②期は決裂期でありながら第①期の延長として人文社会関係の用語も補充してくるし、段々理科系の新語・用語を多く受け入れるようになる。第③期は断絶期に入るが、辞書の類はその制限ならず、相変わらず中国へ流れているから、イデオロギーを避けて主に専門用語に限って語彙の移入が行われていた。第④期は国交回復に伴ってほとんど電子、機械、化繊など科学技術系の漢字語を中国語へ導入することになる。そういう意味で、上記の図は単に頻出度上位1000語を抽出した比較調査なので、中国語における専門語彙の受け入れの様子を詳細に反映できないかもしれない。

本稿は英和辞書を通して中国語への語彙の浸透状況を見ているが、それは近代以降の日本語が中国語へ入った多くルートの一つとして取り上げているだけであって、他の対訳辞書や日中・中日辞書のも大きな役割を果たしたことは確かであるが、それは別の場を借りて論ずることとする。

参考文献

- 荒川清秀 『近代日中学術用語の形成と伝播』白帝社、1997  
「ロブシャイト英華字典の訳語の来源をめぐって—地理学用語を中心に—」『文明21』  
愛知大学国際コミュニケーション学会、1998.11  
「宮田和子『英華辞典の総合的研究』—あわせて近年の近代語研究の著書の出版について」『東方』354号、2010.8
- 李慈鎰 『『附音挿圖英和字彙』の二字訳語における『英華字典』の影響』『早稲田日本語研究』  
(12)、25-36、早稲田大学日本語学会、2004.3  
『近代英和辞書の訳語に関する研究』早稲田大学博士学位請求論文、2006.1
- 遠藤智夫 『『英和对訳袖珍辞書』とメドハースト『英漢字典』—抽象語の訳語比較—A～H』『英  
学史研究』第29号、1996
- 大橋敦夫 「千葉県立佐倉高等学校蔵『模理損字書』訪書記：真田宝物館蔵《五車韻府》との書誌  
比較」『上田女子短期大学紀要』27、2004
- 木村秀次 『『西国立志編』の漢語—「英華字典」とのかかわり—』『新しい漢字漢文教育』第36号、  
2003
- 櫻井豪人 「中村敬字ゆかりの二つの英華字典の所在 —前編：中村敬字旧蔵S.W.Williams『英  
華韻府歴階』—」『日本英学史学会報』110、2-3、2006.09
- 櫻井豪人 「中村敬字ゆかりの二つの英華字典の所在 —後篇：勝海舟旧蔵W.H.Medhurst英華  
字典—」『日本英学史学会報』111、5-6、2007.1
- 黄河清 『近現代辞源』上海辞書出版社、2010
- 茂住實男 「中国語を媒介にした英学研究」『大倉山論集』第27輯、大倉精神文化研究所、1990
- 沈国威 『近代日中語彙交渉史』笠間書院、1994  
『『新爾雅』とその語彙』白帝社、1995  
『中日言語交流史研究』中華書局、2010.2  
『近代英華華英辞典解題』関西大学出版部、2011
- 杉本つとむ 『日本英語文化史の研究』八坂書房、1985
- 杉本つとむ・呉美慧編著 『英華学芸詞林の研究』早稲田大学出版部、1989.10
- 高田時雄 「清末の英語学—鄭其照とその著作」『東方學』第百十七輯、2009
- 陳力衛 「早期的英華字典與日本的洋学」『原学』第一輯、中国廣播電視出版社、1994.2  
「從英華辞典看漢語中的日語借詞」『原学』第三輯、中国廣播電視出版社、1995.8  
「日本近代語と漢訳洋書と英華字典」『女子教育』18、1995.3  
『和製漢語の形成とその展開』汲古書院、2001  
「近代日本語における中国出自のことばについて」『アジアにおける異文化交流』明治  
書院、2004.3  
「漢語造語力の盛衰」『國文學解釈と教材の研究』學燈社、2004.6  
「19世紀英華字典5種 解題」『或問』11号、近代東西言語文化接触研究会、白帝社、  
2006.6  
「近代漢語訳語再考」『日本比較文学會東京支部研究報告』4号、2007.9  
「モリソン(馬禮遜)英華字典」など『日本語学研究事典』明治書院、2007.1  
「馬礼遜『華英・英華辞典』在日本的傳播和利用」『馬礼遜文集・馬礼遜研究文献索引』  
大象出版社、2008.9(日本語訳「日本におけるモリソンの『華英・英華字典』の利用と  
影響」『日本近代語研究5』ひつじ書房、2009.10)  
「梁啓超『和漢讀法』とその「和漢異義字」について—『言海』との接点を中心に—」『漢  
字文化園諸言語の近代語彙の形成—創出と共有』、関西大学出版部、423-462頁、  
2008.10

- 「試論近代漢語文体中的日語影響」『東アジア文化交渉研究』別冊7号、関西大学、2011.3
- 「国際シンポジウム「近代語の語源研究とその周辺」についての報告——『近現代辞源』の評を兼ねて」『東方』364号、東方書店、2011.6
- 「近代日本の漢語とその出自」『日本語学』、明治書院、2011.7
- 「「民主」と「共和」—近代日中概念の形成とその相互影響」『経済研究』第194号、成城大学経済学会、2011.11
- 豊田実 『日本英学史の研究』岩波書店、1939
- 那須雅之 「W. Lobscheid小伝—『英華字典』無序本とは何か—」『文学論叢』109、愛知大学、1995
- 「W. Lobscheidの『英華字典』について(1)」『文学論叢』114、愛知大学、1997
- 永嶋大典 『蘭和・英和辞書発達史』ゆまに書房、1996
- 狭間直樹 「西周のオランダ留学と西洋近代学術の移植—“近代東アジア文明圏”形成：学術篇—」『東方学報(京都)』第86冊、2011
- 飛田良文・宮田和子 『十九世紀の英華・華英辞典目録』『国語論究6 近代語の研究』明治書院、1997.7
- 飛田良文・宮田和子 「ロバート・モリソンの華英・英華字典*A DICTIONARY OF THE CHINESE LANGUAGE*について」『日本近代語研究1』ひつじ書房、1991
- 香港中国語文学会 『近現代漢語新詞源詞典』漢語大詞典出版社、2001.2
- 町田俊昭 『三代の辞書：英和・和英辞書百年小史』三省堂、1981
- 宮島達夫 「語彙史の巨視的比較」『漢日語言対比研究論叢』第一輯、北京大学出版社、2010
- 「日中同形語の発掘」国際シンポジウム「近代語の語源研究とその周辺」関西大学、2011.3.19
- 宮田和子 『英華辞典の総合的研究』白帝社、2010
- 森岡健二 「訳語の方法」『言語生活』1959.12
- 「開化期翻訳書の語彙」『近代の語彙 講座日本語の語彙6』明治書院、1982
- 『改訂近代語の成立・語彙編』明治書院、1991